

様式) 府立松原高等学校 「学校運営協議会」 報告書 (第 1 回)

日 時	令和 2 年 7 月 4 日 (土) 14:00~16:00			
出席者	運営協議会委員	職名等	学校事務局	校務分掌等
	房本 晃	(福) パオバブ福祉会理事	平野 智之	校長
	菊地 栄治	早稲田大学教授	藤原 和子	教頭
	吉田 敦彦	大阪府立大学教授	木村 悠	首席・人権教育主担
	林 茂樹	摂南大学特任準教授	伊藤 あゆ	首席・1 学年代表
	高橋 実加	本校 P T A 会長	山口 裕子	人権教育主担
			中川 泰輔	人権教育主担
	教職員等			
岡垣 有香 (1 学年) 切山 孝二郎 (1 学年) 南岡 靖之 (2 学年代表) 持田 師 (2 学年) 南 玲奈 (2 学年) 亀田 恵美 (3 学年人担) 高橋 伸広 (3 学年) 宮腰 義貴 (3 学年)				
主なテーマ	今年度の方針と計画			
協議内容 の概略	<p>① 今年度の重点項目 (木村首席)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松高版 PBS。8:30 登校の促進、体育館設営の場面で PBS の有効性を確認。</li> <li>・深い学び 3rd シーズンで、選択科目の再設定。</li> </ul> <p>② 松高版ポジティブ行動支援について (中川教諭)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ABC (Approach-behave-count/cheer) を合言葉にした取り組み。適切な行動が増える環境を設定し、働きかけ、認める支援で生徒の良さを最大限に引き出したい。</li> </ul> <p>③ 総合学科への改編時の取り組みを振り返って (学校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・20 年前の一人一講座運動から生まれた多様な科目 (カウンセリング講座、エスニック…) に学び、次の 20 年の選択科目は、知識構築型で、他者や地域とつながるものを。昨年度の「各教科でめざす生徒像」を大切に。「あったらいいな、こんな講座」紹介。</li> </ul> <p>④ 協議委員からのご意見、提言</p>			
提言内容・改善 方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つながりのカタチが問われている、with コロナ時代。変わるべくして変わり切っていなかったことを前に進めるチャンス。例えば、公教育システムと、対面のよりそい。経済的理由で学べない子を出さない社会。学生アドバイザー (担任制のような) の設置や、留学生の親の話を聞く会。また、オンライン、オンデマンドの授業では自由な学びの雰囲気生まれている。履修主義に対する、習得主義への転換。</li> <li>・体系的な知識、基礎学力は予備校の数学アプリやオンライン授業のほうがむらなく、効率よくできることに気づき始めている。それでも残る学校という場は先生の人間味、人間力が出るような授業にこそある。</li> <li>・刺激—反応の単純さ危うさがある。特にコロナ期は求めすぎてはいけない。一緒に</li> </ul>			

学校へ行って学ぶ空気、楽しい学校への思いや優しさ。最高の宝物はいろんな背景を持った生徒と、化学反応。

・行動主義の危うさがあり、線形思考で生徒を一元的に見てしまう。サブシステムを同時に動かさなければいけない。単なるほうびは効果がないという結果のほうが多い。罰か褒美かの二元論を超えて、教員の思いを伝えること。

・なぜ8：30に来させたいのか、意思統一の議論を通して30分登校の意義を積み上げて。こだわりがあるなら、全校展開を。

・総合学科、不安だったが、得意なことを伸ばしてもらって、よく見てくれる。ポイントで伸びること伸びない子はある。しんどい子に気づき、みんなが自信をつけられるように。対人スキル、表現スキル、相手への想像が学べる松高のよさを。

・松高版PBSの最終目標があったからよかった。在宅ワークが増えて、自分は自分でやるべきことを、誰に見てもらわなくても、ほめられなくてもできるか。そのことと、習得主義への転換が重なっていく。交換価値が初めからわかる学びはない。